



月刊サカタニ友の会ニュース

発行(株)サカタニ 集西楽・サカタニ ファミリーマート サカタニ京阪七条店 千605-0993 京・東山区七条こころ坂下・075-561-7974 URL www.sosake.jp/ Eメール info@sosake.jp 編集・酒谷義郎 yosi rou@sosake.jp

いじめの 今昔

最近学校「グルーブ」が出来て支えながらで「いじめ」もあつた。友人間の喧嘩は殴り「いじめ」によ

る自殺事件で騒がれている。学校での「いじめ」は今に始まったことではない。私達の子供時代にもあり、私自身「除け者」に

されたことがある。腕力の強い子が弱い子をドック(殴る)のは常時あること。大抵は「先生に言うたんねん！」の切り札で治まった。

当時の生徒に対して先生は暴力も使える絶対権力者だった。「師の影を踏むな」「三歩空けて歩け」

江戸時代の儒教の教えが残っていた。軍国主義の時代で、上官の命令は「陛下」の命令に準じて、先

生も絶対だった。敗戦翌年、中学時代は予科練(航空機搭乗員に16歳で入れた養成制度)から戻った人も中学に入學して

きた。煙草も吸い、体力差が有つて「クラス」を支配していた。余を緩める方向に進んで

「クラス」を支配していた。余を緩める方向に進んで

ほど目に余る行為があると、クラスを緩める方向に進んで

スの他の多数が団結して糾弾し、学校で何かで「弱者」になった者

に弱者をつくり不満を解消しようとする行動が今の「いじめ」。

大元は「誤った競争原理」だろつ。

「弱者」になった者

に弱者をつくり不満を解消しようとする行動が今の「いじめ」。

大元は「誤った競争原理」だろつ。

「弱者」になった者

に弱者をつくり不満を解消しようとする行動が今の「いじめ」。

大元は「誤った競争原理」だろつ。

「弱者」になった者

に弱者をつくり不満を解消しようとする行動が今の「いじめ」。

大元は「誤った競争原理」だろつ。

「弱者」になった者

に弱者をつくり不満を解消しようとする行動が今の「いじめ」。

朝粥食べておしゃべり会 報告

第98回定例：2月17日(日) 定例 第3日曜日

講師・和田成雄先生 東山区今熊野で内科医院開業の先生に再登場をお願いしました。お話しは「本当は怖くない、コレステロールの話」



コレステロールは身体にとつて、細胞の膜をつくる。胆汁をつくる。ホルモンをつくるもの。でなくてはならないもの。只、多すぎると、動脈硬化、特に心筋梗塞になり易いので注意は必要だ。日本人は欧米人に比べて心筋梗塞はすくない。メタボの人。高血圧、糖尿病、喫煙者は要注意。高齢の女性喫煙は危険率が高いと！



先人の石碑、集落救う

「高き住居は児孫の和楽想(おも)へ惨禍の大津浪此処(こ)より下に家を建てるな」東日本巨大地震で沿岸部が津波にのみこまれ、た岩手県宮古市に



あつて、重茂半島東端の姉吉地区(12世帯約40人)では全ての家屋が被害を免れた。1933年の昭和三陸大津波の後、海拔約60メートルの場所に建てられた石碑の警告を守り、坂の上で暮らし

てきた住民たちは、改めて先人の教えに感謝していた。

11年3月20日配信『読売新聞』

この話がテレビでも流れ、私は

マタ住んでいた宇治市で見た。

四回目の集会報告を兼ね記した。

人間は年月が経過すると忘れがち

だ、石碑のような形に残せば、永

く伝えられるのだと「気付いた。

その後、馬町に転居した。タマ

マのご縁で知り合つた羽衣国際大

どんつき

災害は 忘れた頃

にやってくる。と言つが、まだ東日本大震災を忘れた人はいないだろう。

日本は地震国。関東・福井鳥取・和歌山・神戸等大きいのが二十一年に一度の割、中程度も入れたらモット多い。

先の戦争で焼き払われた大都市や関東や神戸の地震では三ヶ月も経つと『バラック』が建てられた。

だが、東日本では、バラックどころか今も立入りも出来ない所がある。原発事故の放射能のためだ。

太陽のエネルギー源も核融合、あんなに遠くからの日光でも、日焼けが過ぎると皮膚癌になるそうぞだ。

私達の地球は自転と太陽との距離の絶妙なバランスの中で生物(人間)がいる奇跡の星になったのだ。

人類は火・水・風・そして大地を利用して知能を蓄積してきた。が、大自然の力を利用は出来るが征服はできない。

太平洋の潮流は止められず、地震も防げない。人間力は絶対でなく限度限界があると認識すべきだ。原子力を使わず

生存は可能だが、自然破壊が進めば人類は滅亡だ。

**京都&東山
ぶらりピカリ**
38

軍歌・戦友と 全国的に「京

修道小学校 都は爆

撃をされなかった都市」とされ京
都市民でも思っている人が多い。
だが、旧京都市内でも西陣など数ヶ
所が空爆を受けている。その最初
の被爆が東山区馬町である。一昨
年1月16日、修道小学校で、「馬
町爆撃を語り継ぐ会」が修道自治
連合会協賛で開かれ、編集者も開
催の世話役をしている。その後、
四回の会合を経て、「モニュメント
を建立」する方向で進んでいる。

この爆撃は、旧修道小学校校区
に集中している。会合に相談の中
で軍歌「戦友」(こはお国の何
百里)で始まる歌の作詞者が九代
目の修道小学校校長先生だと初め
て知った。作詞者の真下飛泉さん
の事は、以前のこのコラムで「円
山公園」近くにある「こはお国

の何百里」の石碑を取り上げた時
に書いたが、調査不足だったこと
夥しい。
修道小学 校も、平
成8年第 校長後、職を辞して大正14年(1925)下京区より市会議員に立候補
12号の 最高点で当選しましたが、その一
年余後49歳の生涯を閉じました。
「馬町爆撃や村井兄弟社の煙草工
場 積善園」を取り上げた留まつ



丸恩院前の良正院前にある
石碑：戦後、米軍から
撤去令に抗し残ったもの。り、で書き
写真の石碑裏に、氏を崇めた724
名の募金で建立されたと有る。



た。修道校は、明
治2年、現在の
税務署通りに、
下京28番組小学
校として開校。
明治35年に校地
を「村井煙草」
に売却。昭和四
年から修道の校
名になった。



さて、真下飛泉氏(本名は瀧吉)
(1878~1926)は京都府下、大江
町に生まれ、近所の糸問屋に勤め
ながら教育者を目指し、師範学校
を卒業、有濟小学校訓導になり、
同時に「文学会」に参加。明治38
年(1903)4月に「謝野鉄幹主宰
の「明星」が発刊されそれに51首
の短歌を発表。明治36年、母校師
範学校の訓導になり、学芸会で受
持ちの児童に自作の「出征」と言
う唱歌を「オペラ風」にして歌わ
せ、集まつた各母様が内容に感動、
歌詞を求める人が増え「原本」に
なり、それが「露宮」ついで14番
まである「戦友」にと続いた。

「戦友」は二善和丸の作曲も良く
たちまち全国に広がり真下飛泉の
名は歌謡史に残りました。修道校
校長後、職を辞して大正14年(1925)下京区より市会議員に立候補
最高点で当選しましたが、その一
年余後49歳の生涯を閉じました。
写真の石碑裏に、氏を崇めた724
名の募金で建立されたと有る。

**市電が走った
京都を巡る**
福田静二
25



今出川浄
福寺を出
発した1
号系統の市電は、今出川通を東へ
進んでいきます。

市電時代には、両側に虫籠窓と
格子の低い町家も何軒が残ってい
ましたが、今では、その町家や織
維関係の会社も姿を消し、多くは
マンションに姿を変えています。

まもなく到着するのが、今出川
大宮の停留所です。ここは、江戸
時代、糸屋、織屋、織物問屋など
が立ち並び、一日に千両の商いが
あったと言われるほどで、千両ヶ
辻と呼ばれていました。まさに西
陣の中心地でもあったところで、
今でも今出川大宮の東南角に「千
両ヶ辻」の碑があります。

それを証
明するよう
に、以前は
交差点角に、
都市銀行・
地方銀行の
支店が軒を
連ね、大き
な看板が市
電からも見
て取れまし
た。しかし、
ほとんどが



銀行の建物が立ち並び
今出川大宮に到着する市電



「西陣」の碑が建つ
西陣織物館(当時)の前に行く

姿を消してしまいました。私も最
近、たまたま、この付近を歩くこ
とが多くなりました。西陣の経済
的な地盤低下を、この眼で見思
いがしました。

大宮通を南へ歩くと、ここも当
時の面影が乏しくなりましたが、
西陣織や、それに関連する業種が
まだ残り、西陣らしい町並みを形
成しています。町家を活用した飲
食店や工房など異業種も増え、町
並み散策スポットとしても注目さ
れています。

この千両ヶ辻界隈の景観建造物・
町家の歴史資料を公開、各家のコ
レクションの展示なども行つ、伝
統文化祭「西陣千両ヶ辻」が、毎
年9月に行われています。

今出川大宮から少し東へ行くと、
レトロな建物が見えてきます。大
正3年建築の市登録文化財、旧西
陣織物館で、昭和五十四年から、
京都考古資料館として使用され
人形の土型や、その土型を使つて

製作した人形などを
展示しています。
伏見人形は、同大
社近くで作られ、
江戸後期に土産物
として流行し、発
掘調査で幕末から
明治にかけての土
型が大量に見つ
かりました。

京都の歴史が、
今も見え隠れする、
今出川大宮です。

京都の歴史が、
今も見え隠れする、
今出川大宮です。

酒屋で生きて 生かされて



第七十六話

三月が原点

私は 酒屋 二代目です。が、チョット違つと全然違つ人生だったかも知れないことが二度、その何れも三月にありました。

もう40年程前「く」なつた祖母の遺品の中から見つかった「臍の緒」には生まれた日と「喜郎」と祖父の字で書いてありました。祖父は喜一郎でその一字をつけ次男で届ける心算だったのでしょう。私は父一郎が16歳、京一商の四年生、母は14歳の子だったのですから。が、ひと月遅れの三月にだされた出生届けは「義郎」で一郎の長男で、産みの母は離別になっていました。多分祖父が尊敬していたお方の意見に従つたのだと思つています。

私の小学二年生の三月、祖母から仏壇の前で「近く病気で里に帰つていたお母さんが戻つてきやはる、その人がお前のお母さんやで」と告げられました。「ほな(そしたら)お父さんはと尋ねると「メンメさんや」です。店の番頭だと思つていた人が父だったのです。学校の同級生には「お父さん・お母さんがいるのに」と不思議に思つていた私は一度に

両方が出来て飛び上がるほど興奮しました。一、二年生の保護者会や学芸会は祖母が来ました。が、三年生からは母になり、友達のお母さんより若く見え、誇らしく思つたものです。しかも美年齢に九才上乗せして私に教えていたのです。十六歳までそれを信じていました。その間に妹二人と弟



(宗男)が生まれていませ。また、祖父喜一郎は(写真)敗

戦直後・9月2日に五十八歳で亡くなりました。当時の相続法により家屋等総て長男の父が相続をいたしました。もし生まれた二月に祖父の次男「喜郎」で戸籍届けされていたら、今の私は全く違つた人生を歩むことになつたでしょう。メンメとは駄目を表示する拳の親指だけ立てるしぐさの事

身体にやさしい お燗酒

早二月、もうスグ春ですね。燗の終篇 雑学の部類ですが「燗」の字。辞書で調べても「お酒」に關した事にしか使われていません。火燗に門、門の間に月、門の間から「ちろりちろり」と見る事から、火にかけた酒の様子をしばしばうかがつていつとから字が作られ

この欄は、会員の深谷純一様(元大学講師)が隔週毎日新聞に掲載される「カキナーレ」若者の本音ノートの欄から引用したものです。

電車の中

いつもと同じ電車。私はいつものように本を読みながら揺られていた。優先座席付近で、当たり前のように携帯に没頭している大学生。足を大きく開けて、4座席を2人で使っている高校生。大声で電話をする女の人。それを見ているだけの私。すべてがいつもと同じだった。ある駅で大勢の人が乗り込んできた。ガヤガヤという声に本から目を上げると、その中に老夫婦がいたらしい。燗道具の「ちろり」もそのへんから多付けたのでしょつか？。燗酒の最大の特徴は「身体に優しい」ことです。冷酒をぐいぐい飲むと、急に酔いが回つて、とんでもない失敗は、酒飲みならず一度は経験することです。私も、高1の時、夜に蔵の酒を盗み酒して二日酔い状態で登校し、机に伏していたところ、「酒谷は二日酔い中起すな」黒板にと書かれたまま授業が始まりました。今なら大変ですが、先生は「酒谷か。酒屋だからしょうがない」で済みました。それ以後、冷酒での失敗はありません。アルコールは一般的に体温に近

編集後記

一月は逃げる。二月は去ると昔の人は上手く言つたものです。アツと言つても月末。「とんからりん」大苦戦。その「とんからりん」が今号で162号。1号が平成7年4月だから17年、よつちと自分で感心と寒心している。最近は何に書いた事を重ねて書く事がある。少しボケて来たのだらう。もう止め時と思つていたら、百蔵の方がフェースブック(FB)のお友だちになつて下さつた。今号に掲載)殆ど毎日色々な意見を書かれるし、写真を幾つも貼り付けてある。私より21年長の方がである。それで弱音を引つ込め、もう暫く「迷惑でも書か続けること」にした。そのお方の文を読むと、キツチリとしたお考えをお持ちだ。多岐に涉る「こと」がらにも、筋が通つている。見習おつて思つた。

最近は何に書いた事を重ねて書く事がある。少しボケて来たのだらう。もう止め時と思つていたら、百蔵の方がフェースブック(FB)のお友だちになつて下さつた。今号に掲載)殆ど毎日色々な意見を書かれるし、写真を幾つも貼り付けてある。私より21年長の方がである。それで弱音を引つ込め、もう暫く「迷惑でも書か続けること」にした。そのお方の文を読むと、キツチリとしたお考えをお持ちだ。多岐に涉る「こと」がらにも、筋が通つている。見習おつて思つた。